

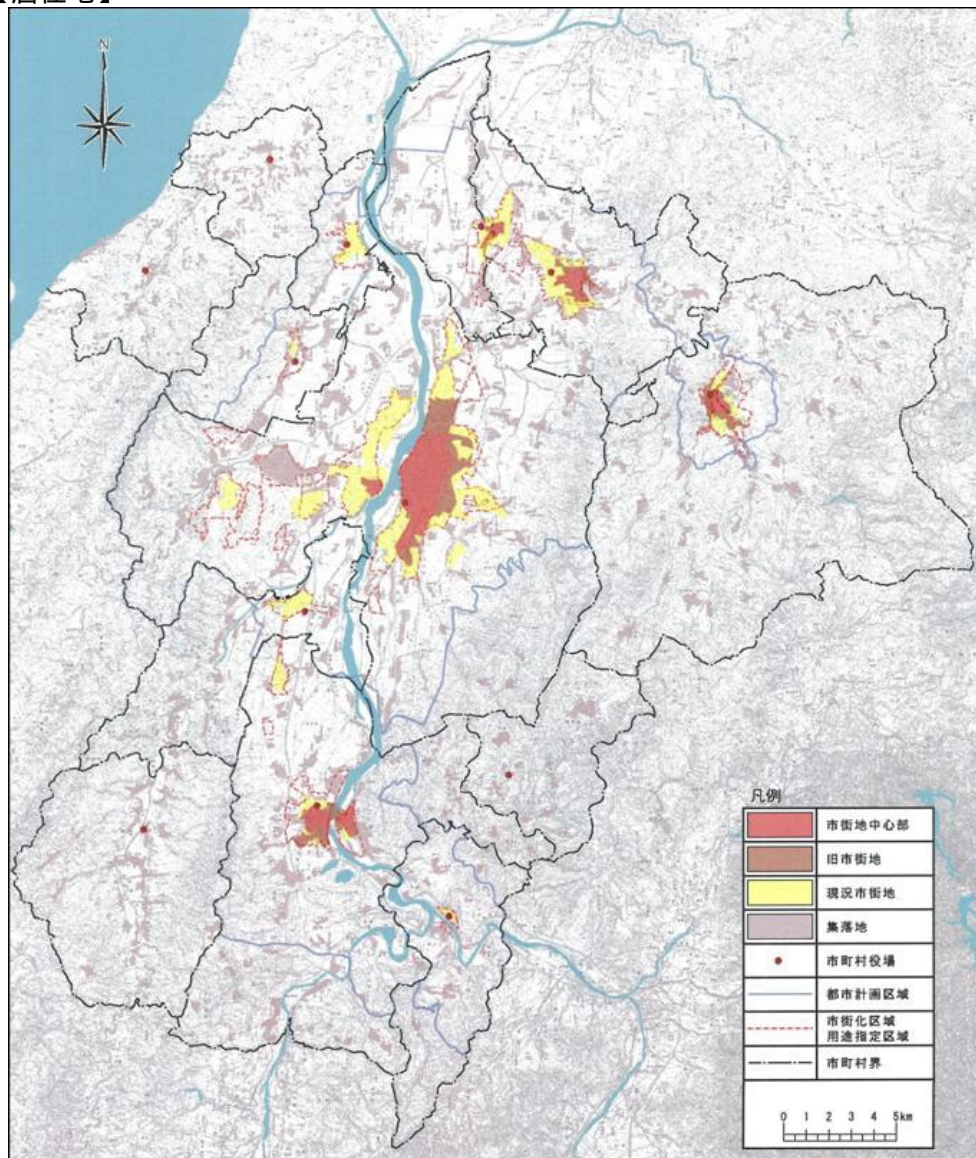
(4) 長岡都市圏の居住地の状況と自然環境の配置

居住地の分布をみると、旧長岡市の中心部の居住地の集積や、旧市町村や周辺市町村で核となる居住地の集積が見られる一方、郊外化も見られる。

また、中山間地域にも、広く居住地の点在がみられる。

圏域の中央を一級河川信濃川が流れその流域に平地が広がり市街地が形成されている。その背後には山間地域が展開し集落が点在している。また日本海にも一部で面するなど、海から中山間地域までの自然環境を有する地域となっている。

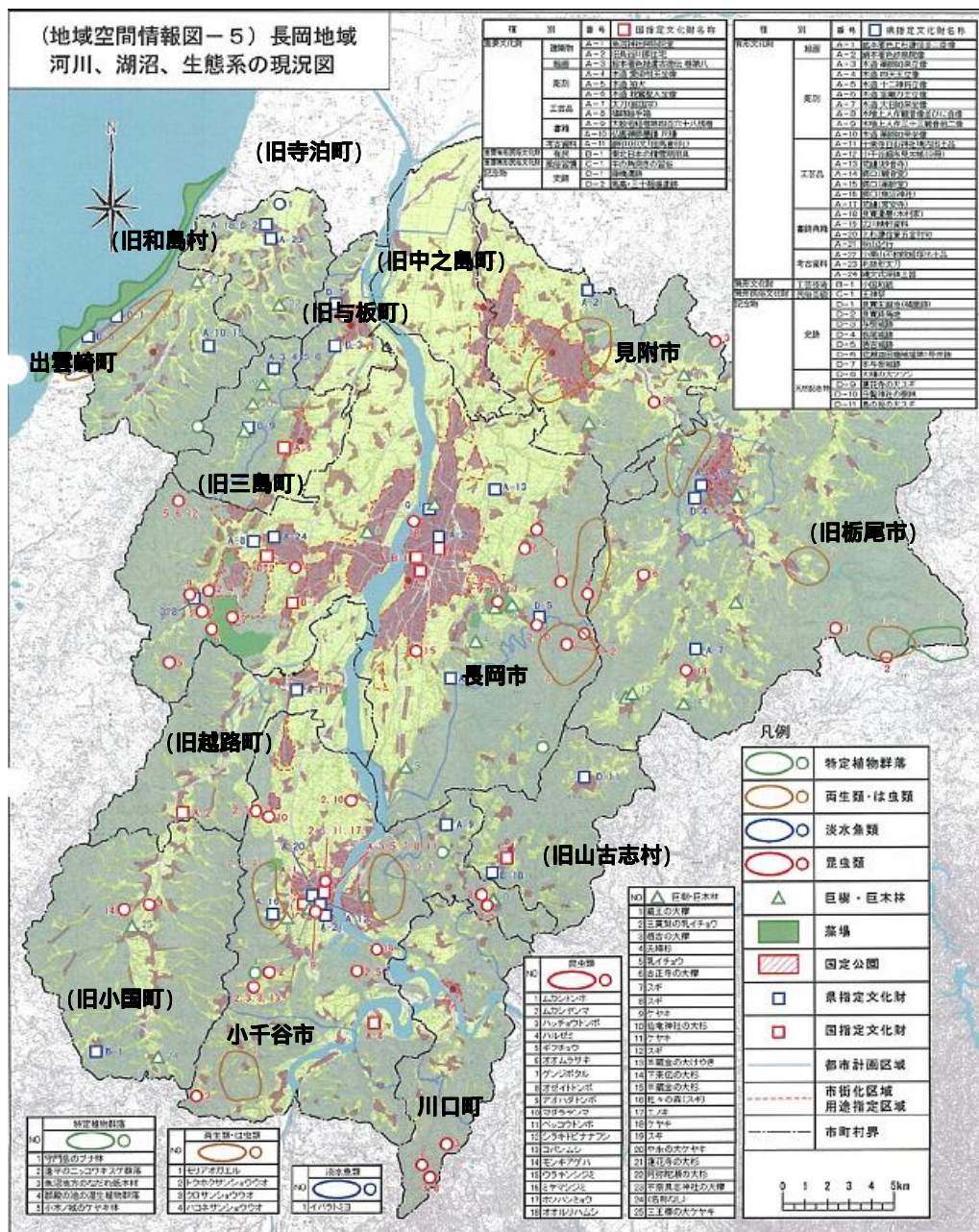
【居住地】



【出典】新潟県「21世紀新潟県都市政策ビジョン 地域編（長岡地域）」（平成15年3月）

図 5-17 「居住地」の集積状況

【自然】



【出典】新潟県「21世紀新潟県都市政策ビジョン 地域編(長岡地域)」(平成15年3月)

図 5-18 長岡地域 河川、湖沼、生態系の現況図

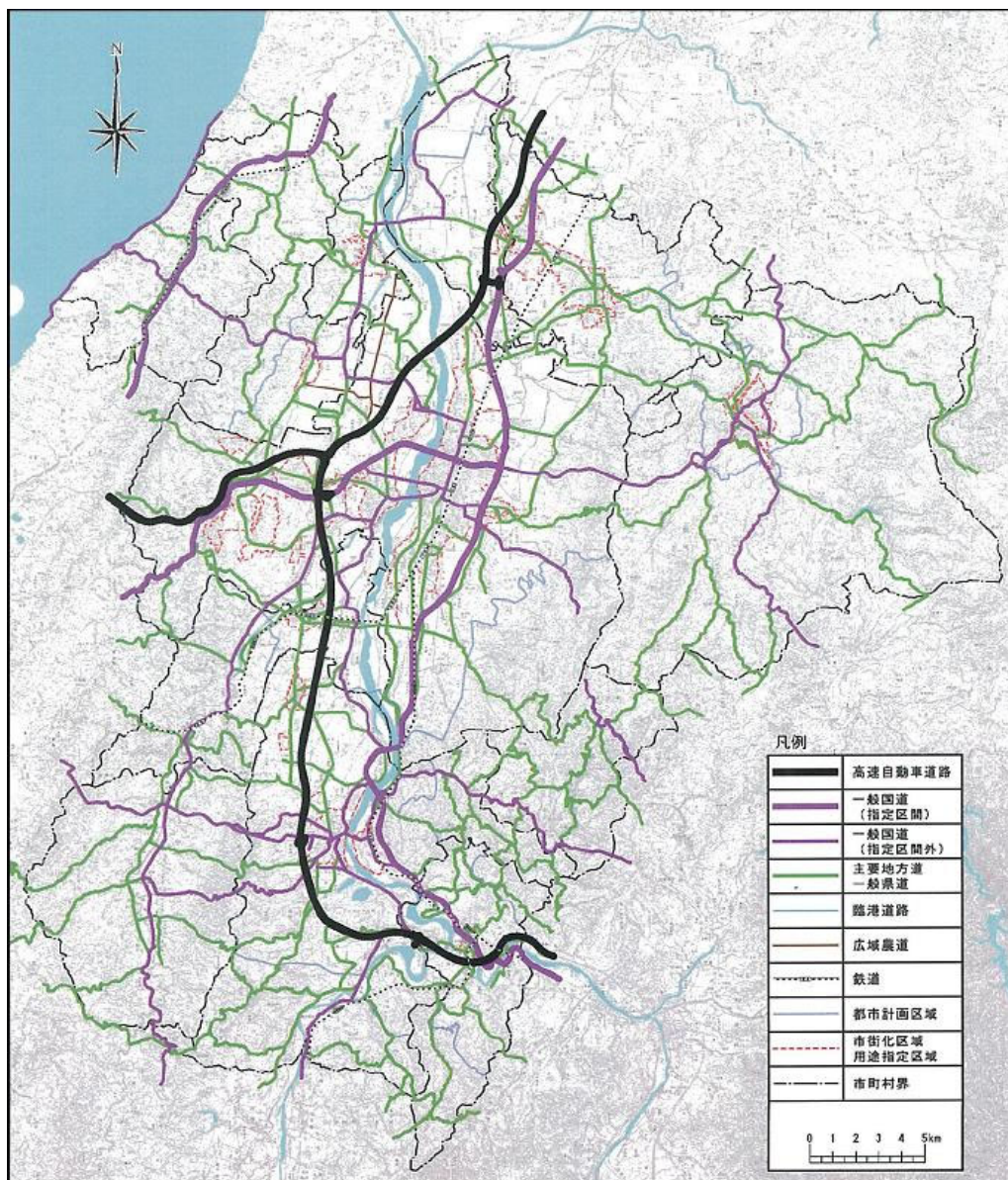


(5) 長岡都市圏の道路の配置状況と公共交通網

長岡都市圏は関東と新潟を結ぶ関越自動車道と、日本海側を縦走する北陸自動車道の交わる位置にあり、同様に主要国道も配置されていることから、旧来から交通の要衝となっている。

居住地をつなぐように、バス路線網も張り巡らされているが、すべてをカバーできているとは言いがたく、今後の中山間地域の人口減少、高齢化の中で、公共交通を維持していくことが課題となる。

【道路網】

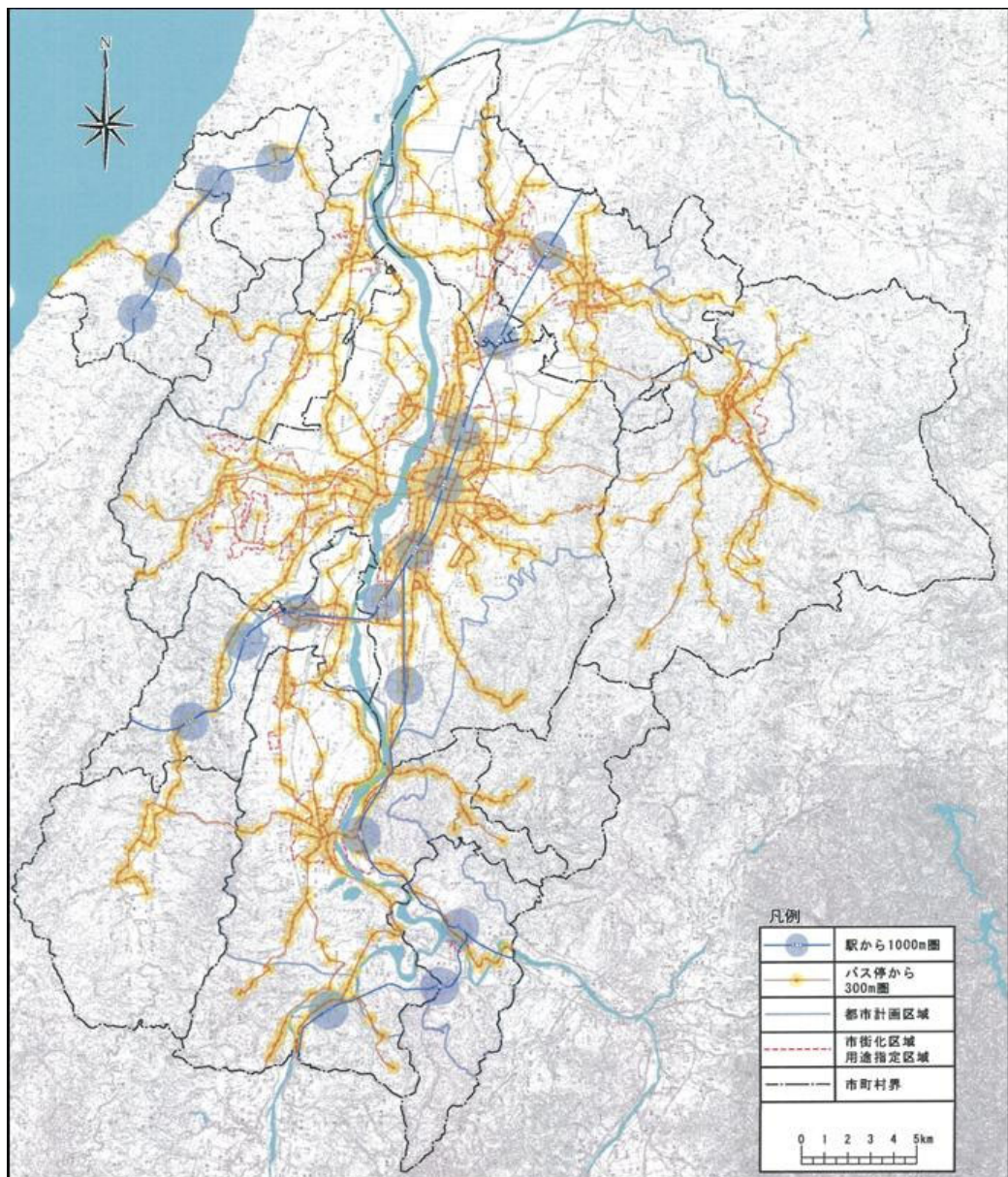


【出典】新潟県「21世紀新潟県都市政策ビジョン 地域編(長岡地域)」(平成15年3月)

図5-19 現況道路網図



【鉄道・バス路線網】



【出典】新潟県「21世紀新潟県都市政策ビジョン 地域編（長岡地域）」（平成15年3月）

図5-20 鉄道・バス路線図

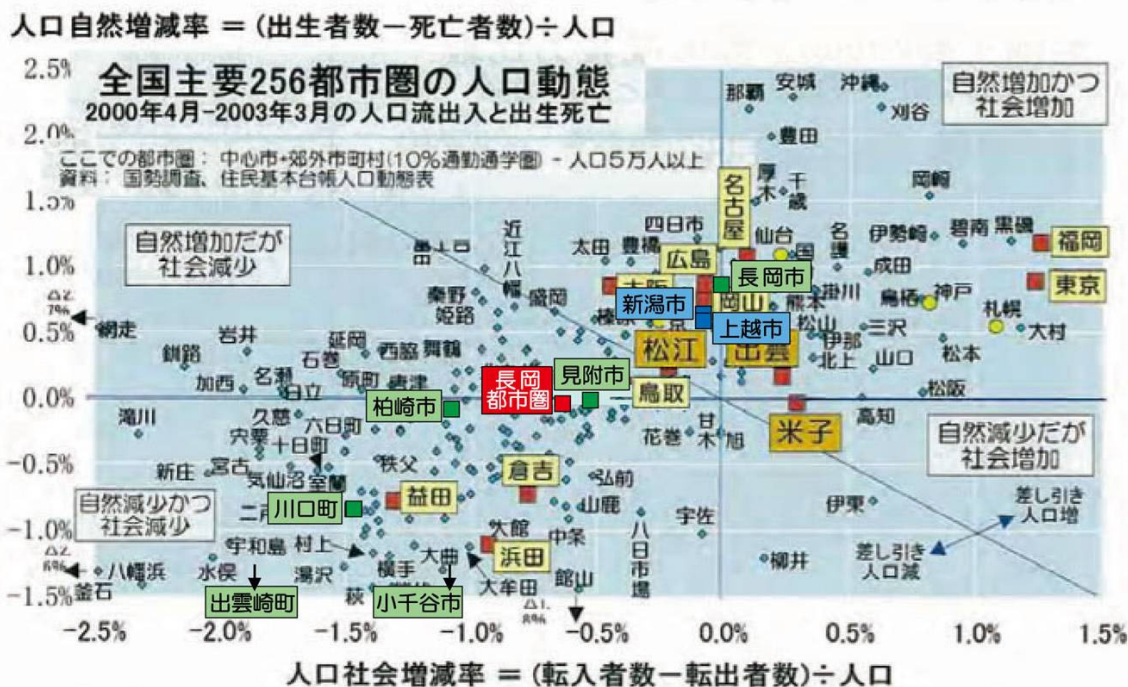
(6) 人口の状況

1) 人口動態に見る長岡都市圏の位置づけ

長岡市は市域周辺の自然増に加え周辺の市町からの流入超過

旧長岡市では人口流入が高く自然増と相まって人口を維持しているものの、都市圏全体では減少率が高く、都市圏で見ると人口減少の傾向にある。

小千谷市、出雲崎町で特に人口の減少が激しい。



【出典】日本政策投資銀行地域企画部「中海・宍道湖経済圏における観光振興策～地域づくり健康診断～」

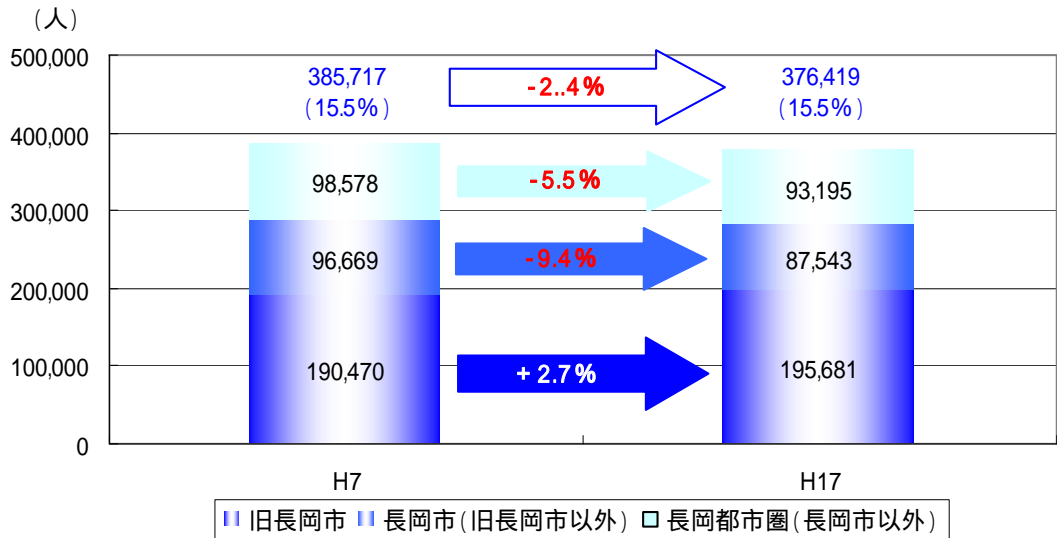
図 5-21 全国主要都市圏の人口動態

## 2) 人口減少

### 都市圏の人口減少と減少状況の偏在

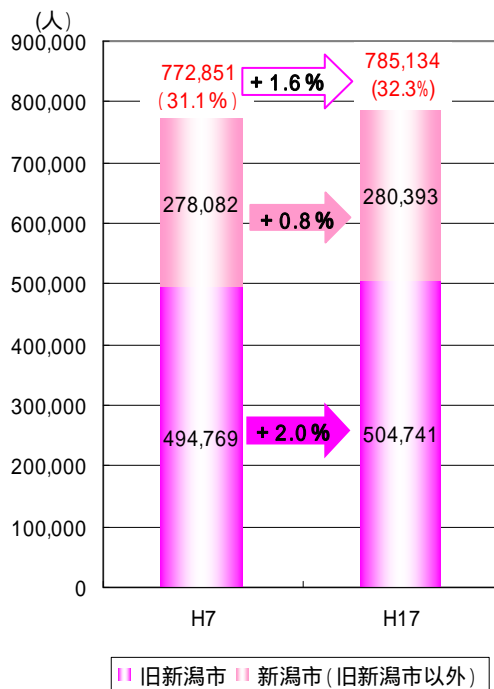
長岡都市圏では、人口減少に転じており、平成7年から17年までの10年間で約9,000人(2.4%)の減少となっている。旧長岡市、旧三島町の中央部は人口増加傾向にあるが、周辺部では10%以上の減少率を示す地域があり、地域的に格差が増大する傾向にある。

長岡都市圏では既に周辺部から縮退の傾向が見られており、旧新潟市以外の地域でも人口増加が続く新潟都市圏と対照的な傾向にある。



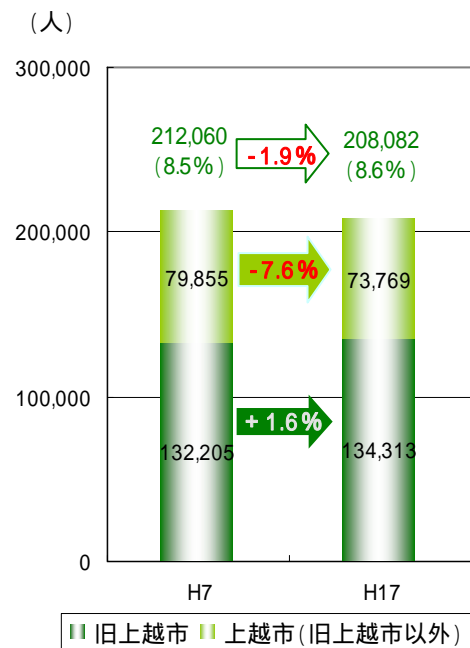
【出典】国勢調査(平成17年)

図 5-22 長岡都市圏の人口推移



【出典】国勢調査

図 5-23 新潟都市圏の人口推移



【出典】国勢調査

図 5-24 上越都市圏の人口推移